文化庁令和２年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

ライフミュージアムネットワーク 2018-2020

事業趣旨

2011 年 3 月 11 日から
私たちは多くのことに気づき、学び続けています。
いのちの儚さ、大切さ。
くらしの愛おしさ。

人の営みの記憶が集積するミュージアムは
いのちとくらしを未来へ運ぶ舟なのかもしれません。

福島県立博物館は、2011 年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故後、文化庁の支援を受けた「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」の事務局をつとめ、さまざまな文化芸術による復興支援事業を実施してきました。
その過程で浮かび上がってきた課題は、福島、東北、被災地に限らず、日本各地に共通するものであり、解決方法を導き出すべく、広く共有されるべきものでした。それらの課題は【いのち】【くらし】に集約されます。これらは各地の博物館・美術館・資料館・記念館を含むミュージアムの活動の核となっているものであり、ミュージアムに限らず、さまざまな団体、機関も大切にしていることです。東日本大震災後、新たに浮上してきたミュージアムの使命。それは【いのち（ライフ)】と【くらし（ライフ)】に再び誠実に向き合うことと捉え、ライフミュージアムネットワークでは、同じ志を共有するネットワークを強化・拡大することでミュージアムの社会的使命を拡張していきます。

2018 年度は、地域の歴史や文化、ライフ（いのち・くらし）に向き合う先進的ミュージアムなどに学び、ミュージアム関係者、表現者、研究者が集い対話するオープンディスカッション・フォーラムを行いました。

2019 年度は、リサーチ・オープンディスカッションに加え、福島を学びのフィールドと捉えたスタディツアーを重ね、その場に身を置くことで得られる体験を通して土地の記憶と課題を共有しました。また、これまでの活動をお伝えする成果報告展、総括となるフォーラムを開催しました。

2020 年度は、これまでの活動を継続するとともに、ソーシャルインクルージョン、地域資料の利活用とネットワーク構築、地域アイデンティティの再興を軸に、ミュージアムの新たな機能・役割を実現し、モデルとなるためのプログラム開発を試み、ライフ（いのち・くらし）に向き合うミュージアムの実践を行いました。

県外事例調査（高知県須崎市）

スタディツアー（福島県南相馬市）

オープンディスカッション（福島県二本松市）

事業概要

ライフミュージアムネットワーク 2018-2020 事業概要

実施期間：2018 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日

活動内容：リサーチ
プログラム開発
スタディツアー
オープンディスカッション
フォーラム

主　　催：ライフミュージアムネットワーク実行委員会

構成団体：南相馬市博物館
はじまりの美術館
三島町生活工芸館
一般社団法人ふくしま連携復興センター
原爆の図丸木美術館
福島県立博物館

委 員 長：鈴木晶（福島県立博物館長）

事 務 局：福島県立博物館

助　　成：文化庁平成 30 年度地域と共働した博物館創造活動支援事業
文化庁令和元年度地域と共働した博物館創造活動支援事業
文化庁令和 2 年度地域と共働した博物館創造活動支援事業